

学校自己評価 2018 評価点集計結果

2018年12月21日調査

2019年3月14日報告

教務課

- 平成30年度の常葉大学附属菊川高等学校の教育活動においては、以下の点で変化があった。
- (1) 常葉大学附属菊川中・高等学校へと校名の変更に伴う附属校化に対する組織体制の強化を図る。
 - (2) 4年目を迎える文理コースによる、新しい学力観に基づく指導方法の成果を求める。
 - (3) 地域に開かれた学校として、地域に貢献できる生徒を育成しつつ、大学や菊川市との連携を充実させる。
 - (4) 新たな教育への転換に向け、課題解決型・双方向授業へのノウハウの構築をする。

2020年を目前にし、より質の高い教育を充実させることを目標に本校では各教員の研修の充実や形骸化した業務の見直しを行った。学校を取り巻く様々な環境の変遷に伴い、新たな試みを導入しつつ、非効率的な業務を撤廃していく中で教員組織の改編や連携を推進している。また、来年度には大規模な新校舎建設を予定しており、快適性、利便性、環境への配慮、危機管理など多くの要件を踏まえ、誇りや愛校心を育む校舎にすると共に、新たな変革に対応していきたい。

分野	番号	達成項目・評価の観点	平均
1		科・コースの特徴を生かし、効果的な指導を実践する。	3.4
科・コース	①	普通科文理コースと普通コースのカリキュラムの実践・検証をする。	3.2
	②	美術デザイン科のカリキュラム改訂に向けた検討をする。	3.4
	③	学習指導・進路指導については、科・コースの実態や進路目標の設定に応じて、共通認識を持って指導する。(常葉大学との連携あり)	3.1
	④	生活指導については、科・コース・学年等によってぶれることなく、共通認識を持って指導にあたる。	3.6
	⑤	美術デザイン科一貫(高)・文理・普通・中学の会議を充実させる。必要に応じて合同会議を実施する。	3.5
	⑥	各科・各コースにおいて行事等については、絶えず検討・工夫して実践し、見直しを図る。(地域社会との連携あり)(常葉大学との連携あり)	3.6
	⑦	クラス担任と授業担当者等、教員相互の連絡を密にし、個々の生徒の状況を把握し、効果的な指導をする。	3.5
	⑧	中高一貫に導入した特色教育(「論理エンジン」・「7J」)の成果を検証する。	3.1
【実践報告】			
<p>美術デザイン科は、特別時間割と自主制作期間を連動させるようにして、高文連の展覧会では多数入賞した。中学生やその保護者、中学美術教員にアピールできたのではないかと。</p> <p>地域創生事業においては、アートコラールさくがわとの連携で高校生企画のウォールペイントが実施出来た。また、フリーペーパーの制作、小学生に美術の楽しさを教えるという、地域貢献が軌道に乗ってきている。地域に必要とされる存在になりつつあるのではないかと。</p> <p>進路指導においては、美術・デザイン科一丸となって実技、学科補講・チューター制を意識した面接指導、センター対策講座など、科として小回りのきいた指導ができ、進路結果にも繋がっている。学級担任(英語・国語)が、学科でのバックアップしてくれた。</p> <p>カリキュラムの検討も進路選択の汎用性、模試との関連性、センター受験科目(2教科対応型)の見直し、内容の分かりやすさなどを検討の柱として実技担当者を中心に会議を重ね、教科主任にもヒアリングを行い方向性が決まりつつある。</p> <p>文理コースは、設置4年目で2期生を送り出した。1年次から基礎学力定着に主眼を置き、未来学講座などの体験型学習(希望者のみ)、オールコミュニケーションの授業を活かしたスピーチなど、自ら発信する能力の開発を目指して取り組んでいた。また二者面談を定期的に実施し、生徒と教員の距離が近くなるようになってきた。</p> <p>普通コースは、昨年効果のあった朝学習を1年部においては、週2回基礎学力、語彙力検定に向けて実施した結果、対外模試での点数の底上げと語彙力検定7割の合格を出すことが出来た。</p> <p>2年部では全教員で行っている授業巡回指導を継続し、問題のある生徒に対して個別指導を行うなど授業規律の向上を図った。特にクラス替えを行った年度当初をメインに各学期の始まりに行った結果、全体的には落ち着いた授業になった。また、全授業担当者における授業アンケートを参考に生徒の現状を把握する事で担任指導や周りとの協力体制も整えた。</p> <p>一貫Sコースとして今年度重点的に実施してきたのは、(1)高1～高3、または中学と高校の縦割り行事の充実、(2)大学入試改革に向けたコース独自の取り組み、の2点である。(1)の行事としては以下の行事を実施し、生徒たちへ進路決定に向けた啓発を推し進めることができた。6月「キャンパス見学会」7月「高3を囲んで」8月「集中講座」9月「卒業生を囲んで」11月「GT EOC表彰会」3月「進路体験発表会」(2)については、7月の補講期間で、ディベート大会とプレゼンテーション大会を実施した。プレゼンテーション大会は24HRと高1の一貫S生の合同実施をしたことで、特に高1の生徒は大きな刺激を受けたようである。他者に自分の意見を英語・日本語ともに伝えるにはどうしたらいいのか、各自工夫しながら取り組むことができた。</p> <p>また、毎月一貫Sコース通信を発行し、そのなかで部活・勉強など頑張っている一貫生の紹介等を掲載することで、一貫Sコース内での情報の共有が図れたのではないかと感じている。</p>			
【今後の課題】			
<p>美術デザイン科は、地域創生事業は対外的な面と美術・デザイン科の実際の行事とのバランスをとって継続していきたい。</p> <p>来年度は秋入試対策として、大学の学びを卒業生から体験できるような春・夏季実技講習会を実施したい。これに自主制作期間の指導も連結させ、1学期からの制作のながれを途切れなくさせたい。卒業制作展のオープニングを今年も実施し、高校生のギャラリートークに中学生を招待することも実現させたい。生徒が3年間でどういった事を学んできたのかを伝える事が美デ科に対する理解を更に深め生徒募集に繋がると考える。美術・デザイン科の可能性・魅力を発信するためにも職場開拓も視野に入れ、積極的にPRしたい。</p> <p>大学入試に向けた取り組みにおいて、低学年次から国立・難関私大合格を企図した補講等を実施したい。美術・デザイン科の補講、特別授業は実技科目を中心に充実しているが、受験での主要学科である国語、英語の補講を学級担任の力を借りて引き続き行ないたい。また、進路・学習指導に向けた美術・デザイン科担当者会議を実施する必要があると感じる。</p> <p>カリキュラムの検討については、現状を反映した改訂になるように引き続き多くの先生方と組織的に話し合いをし、検討を進めたい。特に専攻の再編を完成させ、新課程も視野に入れたカリキュラムを新校舎完成と同時に提示したい。また、今後の授業内容の参考にするという目的で来年度の入学生にアンケート実施も予定している。</p> <p>美術・デザイン科独自で美術検定(レタリング、色彩等)、英検、漢検の積極的受験の推進し、生徒の可能性を広げたい。図書館での美術の蔵書を増やして、積極的な活用を促したい。</p> <p>エレベーターの使い方や、防災、危機管理に関する指導を今後も重視する。実技室での緊急時の対応を授業の中で実施する。</p> <p>文理コースは、昨年度の1期生に比べると、センター試験結果や入試の合格結果においては下がり気味であるように感じるが、成績伸長の部分において科目別で見ると飛躍的に伸びている生徒や、地道に積み重ねた生徒が増えている。傾向的には好きな教科、科目が伸びていて、好きに付与された楽しい、やりがいのある授業で更に結果に繋がったと感じる。その点で、学校教育の本質である「授業」を焦点にし、模試と同じレベルの授業展開ができれば、入試で戦える力が身につくと考える。</p> <p>また、学習に対するモチベーションを向上させる企画が必要であり、コース内の縦割りを活かした、役立つ情報を全学年で共有する時間を設けていきたい。既に企画もしてあることで、2019年度実施し、結果に繋げていきたい。</p> <p>普通コースは、各学年で効果があった指導法をコースとしてまとまって取り組みたい(朝学習・授業巡回等)。普通コースの生徒の中にも学力の高い生徒は多く、学習に対して高い意識で取り組んでいる生徒も多い。出来れば上位層向けの充実感のある授業を実施したいが、授業に対する取り組み方に大きな差がある。課題としては、下位層の生徒の意識付け(進路希望)を早い段階で身に付けさせることより授業内容の充実を図りたい。一貫Sコースの行事が多く、今後精選していく必要がある。また生徒たちの満足度が高い行事の内容や運営についても、毎年検討しながらより良い行事となるよう、一貫会議を活用していく。</p>			

2		授業内容の充実を図り、学力を定着させる。	3.3
教務	①	授業規律を確立させる。特に始業のチャイムで始まり、終業のチャイムで終わることを徹底させる。	3.7
	②	授業担当者は各科・コースと連携をとり、計画的・系統的な教科指導を行う。	3.2
	③	発見学習、体験学習、問題解決学習、調べ学習等の手法を取り入れた授業(できればプレゼンも含む)を実践する。	3.3
	④	自ら学ぶ姿勢をつくることと家庭学習の定着を、各教科の工夫で求めていく。	3.2
	⑤	各教科は、司書と協力して選書や生徒の図書室利用を促す指導をする。	2.4
	⑥	本校独自の授業研修を実施し(6月・11月)、教員の資質向上・授業力向上を図る。(※常葉大学との連携あり)	3.4
	⑦	教科会議を授業力向上のための意見交換の場、③の検証と共有の場とする。	3.3
	⑧	定期テスト、課題テスト、全国学力・学習状況調査については、教務課主導で結果分析と事後指導をして、担任と教科担当との連携を基本とする、より効果的な指導体制をつくる。	3.6
【実践報告】 授業規律は生徒課の協力を得て年度当初から呼びかけ、概ね実現できている。生徒の授業の様子も落ち着いている。6月・11月の「授業力向上月間」、5年目までの教員を対象とした研究授業、常葉中高・橋中高と合同で開催したアクティブラーニングを活かした授業の研修、11月は本校独自の研修授業などを通じて、「生徒が主体的・対話的で深く学ぶ」ことのできる授業についての研修を進めてきた。発見学習、体験学習、問題解決学習、調べ学習等の技法を取り入れた授業を実践する教科・教員が増えた。科・コースを意識した授業を進めていると思われる。 課題を出したり小テストを実施し、家庭学習を促している。夏期休暇・冬期休暇中は課題を出し、学期初めの課題テストでその定着度をはかっている。 図書室の利用はいくつかの授業にて見られ、科・コース・教科で読書指導を進めている。 新任～5年研を通じて教科会議を様々な意見交換の場とし、授業方法の共有化も見られている。2022年実施の次期学習指導要領への意識付けをさらに進め、新課程のカリキュラム作成とその内容について引き続き研修を進めていく。 定期テスト、課題テスト、ペネッセのテスト(スタディサポート、模擬試験)について、各クラスの平均点・分布を公表し(一部進路課と連携)、各教科・授業担当で分析を進めている。			
【今後の課題】 今後も授業規律を意識し、1時間＝50分の授業を大切にす姿勢を生徒・教師共に持つ。 科・コースに応じて生徒にとって手応えのある授業をさらに進め、課題を設定し、それを解決すべく充実した家庭学習を行わせる。 アクティブラーニングなど生徒の心を揺さぶり、主体的に学ぶ姿勢を持たせていく授業をできるだけ行う。教師側もそのためのスキルを磨いていく。新カリキュラム作成に向けて、その特徴の1つである「探究」活動を授業や家庭学習(課題)に取り入れていく。 進路面を意識した長期的な目標を掲げさせ、それを達成すべく段階的な中期目標、短期目標を掲げながらそれを達成すべく日々の学習に取り組ませる。 年間の読書冊数を設定するなど、計画的にかつ持続的に図書館の利用を促していく。語彙読解力の向上と結びつけていきたい。 6月・11月を、本校内で授業を自由に見学できる雰囲気をつくり、スキルアップをはかる月間とする。 テストの分析と、生徒による授業アンケートなどを織り交ぜながら生徒のニーズを具体的に把握し、より効果的な指導体制を構築していく。 生徒の学習において、PDCAサイクルを意識して進めさせていく。そのために進路課・生徒課との連携により「夢手帳」を最大限に活用させていく。			
3		生活指導を重視し、事故やいじめや非行等を未然に防ぐ指導を重視する。	3.7
生徒	①	全ての教職員が、服装・身なりについての指導を集会・SHR・授業・校内校外補導等、あらゆる場面、機会を捉えて行う。(※地域社会との連携あり)	3.6
	②	挨拶をしっかりとさせる。教師から率先し、生徒にも定着させる。(※地域社会との連携あり)	3.9
	③	ソーシャルメディアの扱いについて研修し、試験時に使用することやいじめや性非行につながるものが無いよう、規則を守らせる指導をする。	3.4
	④	指導過程を統一し、共通認識のもと、ぶれない指導をする。	3.6
	⑤	交通安全の意識を高め、交通ルールを遵守させ、事故を未然に防ぐ指導をする。(※地域社会との連携あり)	3.6
	⑥	公共の場でのマナー(特に電車での通学マナー)を遵守させる。(地域社会との連携あり)	3.3
	⑦	カウンセラーによる学校教育相談を充実し、対象を生徒に限らず保護者・教員にまで広げて精神的ケアをしていく。	3.7
	⑧	本校の「いじめ防止基本方針」に則った指導をする。	3.9
	⑨	全ての教育活動において体罰は用いない。	4.4
【実践報告】 4月にインターネット活用講座を実施し、事例を挙げながら自他を守るためのSNSのマナーやルールを伝えた。6月の薬学講座では静岡県警察本部 刑事部 組織犯罪対策局 薬物銃器対策課の方に講演をしていただき危険ドラッグ等の危険性が身近に潜んでいる現状について理解を深めた。7月には菊川警察署 交通課の方に講演していただき、交通事故は被害者だけでなく加害者にもなり得る可能性がある事を学び、交通ルールは安全な社会性生活を営む事に大切なことを再認識させた。挨拶や身なり、身辺の整理整頓などの基本的な生活習慣やマナーを育てていくことを生徒指導の根幹に据え、全職員で取り組んだ。特に担任は成長期における中高生の心の変化をきめ細かく汲み取り、日常生活から成長を促す指導を心掛けた。SHR・LHR・清掃指導における生徒の観察は生徒の変化をとらえる重要な機会であった。これらの情報は学年や生徒課職員で共有され、内容によっては学年主任、生徒課長、養護教諭、スクールカウンセラーで支援会議を実施し、連携を図りながら問題解決にあたった。なるべく多くの目で生徒の変化を見るよう心掛けた。また、放課後の部活動では部活動顧問が生徒の成長の場として細やかな指導を心掛け、迅速な対応にあたった。 「学校アンケート」や「生徒実態アンケート」を実施し、体罰やイジメの問題が潜在していないか声の聞き漏らしがないよう全校に対し調査を行った。個人情報に配慮しつつ組織的に対応することで現在体罰はなく、イジメもなくなっている。 昨今のインターネットやスマートフォンの普及によりソーシャルメディアは複雑に多様化している。そのため研修等重ねてもなかなか大人が現状に追いつかない部分は否めない。しかし、ネットパトロールの活用や「インターネット活用講座」、担任からの指導などで未然防止を心掛けている。また、家庭の教育力に負うところも大きく、家庭との連携が必要不可欠であり、保護者会時に話題の一つとなるよう心掛けている。			
【今後の課題】 現在の中学生・高校生が抱える心の問題は多様な様相を見せている。教員個々で解決に導けるものではなく教員団がチームとして関わっていく必要がある。しかし、心の問題の初期段階では担任、保護者でも捉えにくいところがある。養護教諭やカウンセラーの存在は必要不可欠である。また、心の問題には生徒を取り巻く社会環境や家庭環境、インターネット・スマートフォンの普及が大きく関わっている。通信網の発達により子供たちの交流範囲は国内にとどまらず全世界に及んでいる。規制に頼るのではなく自分たちで善悪の判断、リスク管理ができるような指導を心掛けなくてはならない。そのために自分だけがどれだけネット依存しているか現状を客観的に見つめる機会が必要である。携帯・ネット依存やネットモラルに対する教育・指導は急務である。 さらに今後の社会を築いていく中学生・高校生にコミュニケーション能力やマナー・モラル教育は必要不可欠になる。本校でも全教員で意識的に声掛けや挨拶、行動を考えさせる指導、行動を振り返らせる指導を心掛けている。しかし、これは継続的に育んでいく能力でもあり、学校だけでなく、地域・家庭とも連携をとって取り組まなければならない。一人の生徒がどれだけのためにたさんの大人が関わり、生徒の意識をいかに高め、社会や地域に貢献できる人材の根幹を作ることが課題である。			

4	進路指導を充実させる。(※常葉大学との連携強化)(※地域社会との連携強化)	3.4
進路	① 第一志望の進路目標を達成させるため、授業の他、特別授業・補講・講座等の体系化と質の向上を図り、それらを最大限に活用して学力を養成する。(※常葉大学との連携強化)(※地域社会との連携強化)	4.1
	② 精神力・体力が伴った粘り強い意思を確立させ、安易な進路に妥協させない。	3.3
	③ 各種模擬試験、学力コンクール、学園内入試、センター試験については、進路課主導で結果分析と事後指導をして、担任と教科担当との連携を基本とする。より効果的な指導体制をつくる。	3.5
	④ 英検・漢検・数検等に積極的にチャレンジさせる。	3.6
	⑤ 担任、教科担当、進路課が連携して進路指導をする。	3.4
	⑥ 国公立・難関私大のAO・推薦入試対策を、広く協力を求め、指導体制を明確にして実施する。	3.3
	⑦ 進路面接を必ず実施し、生徒・保護者に対して適切な助言指導を行う。	3.9
	⑧ 放課後の図書館を利用した自主学習の充実をはかる。全教員が最低1回は図書館当番をする。	3.8
【実践報告】		
<p>①第一志望の進路目標を達成させるため、授業の他、特別授業・補講・講座等の体系化と質の向上を図り、それらを最大限に活用して学力を養成する。(※常葉大学との連携強化)(※地域社会との連携強化)</p> <p>高1・2は夏・冬・春の三期でオープン補講、高2は3学期に附属高校学力試験対策とセンター対策、高3は1学期～夏に附属高校学力試験対策・センター対策補講、2学期はセンター対策補講とセンター学習会を実施した。また中学・一貫・美デ科は、独自補講を実施した。なお、春期補講は今年度からの実施となり、高2の3学期補講は学年部の企画により実施した。</p> <p>講座として、「未来学講座」の運営に進路課が関与・協力する方針を示し、講座担当教員に加え、進路課教員を配置した。</p> <p>②精神力、体力が伴った粘り強い意思を確立させ、安易な進路に妥協させない。</p> <p>モチベーションの向上を企画し、様々なガイダンス等進路関係行事を年間通じて実施した。</p> <p>高1:進路適性検査、進路講演会、教養講座(高大連携)、小論文ガイダンス、進路ガイダンス等 高2:進路講演会(高大連携など)、進路講話、小論文ガイダンス、進路ガイダンス等 高3:小論文ガイダンス、進路講演会、進路講話等</p> <p>③各種模擬試験、学力コンクール、学園内附属高校入試、センター試験については、進路課主導で結果分析と事後指導をして、担任と教科担当との連携を基本とする。より効果的な指導体制をつくる。</p> <p>進路課を中心に、結果データの提供を行った。高2の重点クラスでは「教科担当会議」を開催し、情報共有・意見交換を図った。また進路課研修では、「進路指導引き継ぎ会」を科コース単位で実施し、受験指導に関する情報共有・意見交換を行った。</p> <p>④英検・漢検・数検等に積極的にチャレンジさせる。</p> <p>進路講話などを通じ、推薦等で生かせることを周知し、受験促進を図ってきた。また英検の2次試験指導では指導体制を整備した。</p> <p>⑤担任、教科担当、進路課が連携して進路指導をする。</p> <p>⑥国公立・難関私大のAO・推薦入試対策を、広く協力を求め、指導体制を明確にして実施する。</p> <p>⑦進路面接を必ず実施し、生徒・保護者に対して適切な助言指導を行う。</p> <p>面接指導は学年が主体となり、小論文指導などは国語科教員が中心となり指導に当たった。国公立大学等は早めに推薦者決定し、進路課長面談を7月末に実施するなど、夏期休業中に準備を進められる状況を作った。</p> <p>⑧放課後の図書館を利用した自主学習の充実をはかる。全教員が最低1回は図書館当番をする。</p> <p>当番を日直のように事前に分かる状況にした。試験前を中心に生徒は自習を行っている。</p>		
【今後の課題】		
<p>補講について、多くの教員がその必要性を共通認識としているが、①内容・計画性、②教員確保、③参加生徒数の少なさを課題としている。</p> <p>①授業に加えて実施するからには、目的とそれに沿った内容・計画が必要であるが、実施することが目的となってしまう、十分な内容に関する検討がなされないまま、計画・実施に至っている。学期を通して、計画していく必要がある。</p> <p>②学年をまたいで担当するなど、一部担当教員への負担が大きい。講座や部活動等課外活動との調整が求められ、抜本的な問題解決は難しいが、計画を早めることで円滑な調整を進めたい。</p> <p>③生徒を募集しても、1桁しか参加しない補講も多くあり、また申し込んでも辞退する生徒もいた。補講の目的・意図の共有、生徒の学習へ向かう意識に課題を感じる。また集団授業形態の限界があることも認識しなければならない。</p> <p>通じて、「場を提供する」補講からの脱却と、生徒の向学心の醸成を並行していかなくてはならない。</p> <p>現行の入試制度では、多種多様な人材を集めることを目的に、多面的評価を行う推薦制度が各大学で拡充され、「一般入試で受ける」こと自体へのプライオリティはかつてほど高いとは言えない。一方で、その現状において、いかに目的意識や職業観・社会観を育成し、進学するに値する学力を身につけ、高等教育へと送り出すか、ということが求められている。ガイダンスをやりっぱなしにせず、リフレクションやアウトプットを必ず企画し、深い省察をさせることが必要と考える。</p> <p>模試等のデータに関しては、分析・共有後の指導そのものが十分ではない。次年度以降は、教科会議が数値的な目標設定を提示し、指導計画・実践(授業)を行い、検証可能な環境を作りたい。進路課としては、検証に関する計画を立て、取り組みの共有を可能とする環境を整備したい。</p> <p>英検は受験人数も増加し、挑戦する生徒が増えている。しかし漠然と受験を勧めるのではなく、受験人数・合格率などにおいて目標を設け、受験を推進する体制を各教科会議と築く必要がある。英検は今後の入試改革をにらみ、受験することが当然とする啓蒙活動も必要になる。合格した生徒の顕彰など、もっと積極的な発信をする。</p> <p>進路に関する相談や、面接・志望理由書・小論文等の指導に関して、担任の把握を超えて相談・指導を実施するケースが多く見られる。生徒の動きに関しては、まず担任が把握・理解する状況を作り、整理をしたい。高3担任の指導比重が偏り過ぎるので、面接指導は全高校教員による当番実施、小論文指導に関しては、「担任→(進路課→)国語科(地歴科・理科等)」といった体制を築き、流れと指導担当者の明確化、志望理由書については担任指導といった分担を明確にしたい。</p> <p>また国公立については、受験計画段階から助言者を指名し、学年を超えて指導に当たりたい。</p> <p>放課後の自習人数を見ると、試験前に偏り、日常的な利用は頭打ちである。空き教室に残る問題もあり、これをどこまで認めるかも利用促進に関わってくる。</p>		

5		環境美化・公共物を大切にすることを重視する。	3.5
総務	①	教室美化及び私物管理をしっかりとさせ、落ち着いた教室環境を確立する。	3.5
	②	ゴミの減量と分別指導を徹底する。	3.5
	③	「公共物の破損」がなくなるよう「大切にすること」の育成をする。	3.6
	④	環境美化のボランティア活動(生徒会・LHR・部活)を実施し、環境美化の意識の向上を図る。(※地域社会との連携あり)	3.6
【実践報告】 毎日全校で清掃活動を行っている。職員も担当場所に赴き、生徒と共に清掃に取り組む。朝は運動部員達が交替で通学路に立ち、清掃活動を続けている。毎朝その姿に接することで生徒は美化への意識を自然に高めている。教室には複数のゴミ箱、古紙回収箱を設置して分別し、教室の美化管理を生徒の手で行っている。ゴミの分別については、清掃時間にゴミ集積所に生徒自ら立ち、持ち込まれたゴミの分別指導を徹底している。生徒による指導は効果的でゴミの分別を習慣化させている。またペットボトルのキャップを生徒会で回収して、環境への意識を高めている。各学期、専門委員の呼びかけで教室内の机・椅子の整頓、ロッカー内の私物の管理などを意識づけている。さらには、生徒会の呼びかけで毎月「クリーン作戦」というボランティア活動を実施して校内や通学路の清掃を続けている。これらの環境美化への生徒自身の活動は美化、公共物への配慮を浸透させる有効な体験となっている。建て替え前であるが、伝統ある校舎を大切に使用している。			
【今後の課題】 現在続いている生徒による清掃活動・ボランティア活動は本校の誇らしい伝統として今後も大切にしていってほしいと考える。教室内も個人ロッカーで私物を管理して乱雑になることなく、整理され落ち着いたクラスが多い。まれに汚れたトイレ、乱雑な教室が目につくことがあり、その際には職員で情報を共有し、原因を探り指導に活かしている。生徒の心の状態を映し出している生活環境の改善によって心の荒れを防ぐことができると考え、今後も環境の美化に努めていく。今後はさらに一歩進めて、環境の美化に向けた指導を地球環境保護に向けた環境教育の一環として位置づけ、持続可能な社会の実現を探る心に繋げていきたい。			
6		防災や危機管理に関する指導を重視する。(※地域社会との連携強化)	3.0
総務	①	防災訓練のあり方について研修する。	3.0
	②	東南海地震を意識して、本校で実施する防災訓練はもちろん、生徒の居住地での防災訓練にも積極的に参加させる。(※地域社会との連携強化)	3.3
	③	恒常的に危機管理について研修する。(※常葉大学との連携あり)	2.7
【実践報告】 12月には希望生徒による救命救急、AEDの研修会を行った。毎年実施することで少しずつ緊急の際の対応が浸透している。また9月には、全校生徒で避難訓練を行った。本校生は広範囲から通学しているために地区別避難訓練を実施して、災害時に帰宅を共にするメンバーを生徒達に確認させた。12月には地域の避難訓練への参加を呼び掛け、多くの生徒が参加した。防災用品を再確認し補充を行っていく。 近年、台風の接近による暴風雨や集中豪雨による交通機関の遅延など、休校等の措置をとる場面が増えてきた。本校生は、広い地域から通学しており、それぞれの地域で気象条件が異なり判断が難しい場面もある。自宅に居るとき、あるいは通学途上で災害が発生したときの判断基準を設けてあるが、同時に「絆ネット」のメール配信で学校の指示を速やかに保護者・本人へ知らせることができるよう配慮している。			
【今後の課題】 2011年の東日本大震災、本年度の熊本地震、洪水、台風被害と自然の驚異にさらされることが増え、学校としていかに生徒の安全を確保するかが大きな課題である。「地震防災応急計画」「消防計画」の組織図に基づいたシミュレーションはするものの、緊急時に職員全員が顔を合わせることができるかも不明である。その場の状況は千差万別であることが予想され、柔軟な対応が求められる。沿岸部や山間部、川沿いの地区、住宅密集地など、様々な場所に生徒達の居住地があり、画一的な指示では逆に危険性が増す場合も考えられる。想定外の混乱した状況内でもふさわしい対応ができ、言葉による指示が無くても生徒が速やかに安全な場所に避難できるようにする工夫が必要である。また指示を仰ぐ生徒は自己判断で命を守る術も身もつけさせなければならない。また生徒だけではなく地域の方々の緊急避難所にもなっていて、より広範囲な対応が必要とされている。そのためには地域との連携を深め、一層踏み込んだ具体的な研修が必要とされている。			

7	学校行事・生徒会活動の活性化を図る。	3.8
その他	① 学校行事に積極的に参加させることにより、達成感を持たせ、学校の活性化を図る。	4.0
	② 生徒会の一員という意識を持たせ、生徒会主催行事に積極的に参加させ、協力させる。	3.6
	③ 様々な活動を通してリーダーの育成を図る。	3.8
8	LHR・SHRの効果的活用を図る。	3.4
その他	① SHR・LHRをより計画的、効果的に活用する。(※地域社会との連携あり)(※常葉大学との連携あり)	3.5
	② LHR時に図書室を利用する時間を設定し、図書室に足を運ぶ環境をつくる。	2.5
9	部活動の充実を図る。	3.8
その他	① 部活動を人間教育の場として捉え、その上でより高い目標に向かわせる。	3.9
	② 部活動においても、ボランティア活動や地域の行事への参加を通して学校や地域に貢献させる。(※地域社会との連携あり)	3.7
	③ 部室・活動場所の管理・美化を徹底する。	3.5
	④ 顧問は部員の学習状況・生活状況を把握し、適切な指導を行う。	3.6
	⑤ 要学生を持つ部活は、要学生としての自覚と模範的な学校生活を送らせる指導を行う。	3.6
	⑥ 文化部の活動の強化とサポートの充実を図る。(※地域社会との連携あり)	3.4
10	「自己評価」や「学校関係者評価」を活用し、生徒・保護者・同窓生・地域の人々から信頼される学校づくりをする。(※地域社会との連携あり)	3.6
【実践報告】		
<p>文化祭、新入生ゼミ、合唱コンクール、体育祭などの学校行事は、クラス内の人間関係作りや学校生活・社会生活への適応能力を育む重要な役割を担っている。リーダーの育成やメンバーシップ、チームとしての問題解決能力など社会や地域で貢献できる人材に必要な根幹を養っている。文化祭や合唱コンクールは年々成長を見せている。保護者の皆様や地域の皆様の応援を力に変えることで自分たちの力を一層高めている。修学旅行では海外に行くことで日本の良さを再認識したり、海外に目を向けるきっかけになった。生徒たちの満足度が高かったのは日々の人間関係が築けていることを指している。</p> <p>本校は運動部・文化部共に活動が盛んであり、ほとんどの生徒が部活動に所属し自分たちの可能性を信じ、能力や感性を磨いている。部活動は教育活動の一環であり、地域や社会で貢献できる人間形成のために授業やHR活動とは違ったアプローチを試みる活動である。最高の問題解決能力を育む場という位置付けをしている。本年度運動部では陸上部・バドミントン部・空手道部・ソフトボール部が全国大会に出場した。運動部だけでなく美術部、書道部などの文化部も活躍している。多分野において生徒が個性を追求・探求している。校内の活動にとどまらず、地域のニーズに応じてそれぞれの特色を活かしながら地域貢献を行う場が増えた。学校における教育活動の成果を広く地域の方々には知らせる場でもあり、生徒自身が地域に発信することにより自分たちの新たな問題への気づきを得て、本校中高生の学びがより豊かなものになっている。</p> <p>生徒・教師間の挨拶の奨励について、概ね登下校時、廊下等でのすれ違い時の挨拶が良い意味で上級生の影響もありできていた。</p> <p>生活チェック(月1回)・マナーアップ(生徒課)・インターネット講座の実施について、再チェック等にかかる生徒も少なく、日頃から注意する意識をもってしている。マナーアップ(生徒課・規律委員会)学期毎学年・クラス目標を立て実施した。インターネット(SNS)等のトラブルが多いこの時代に外部講師を呼び講座を開き、担任からクラスでの注意喚起の指導をおこなった。</p> <p>教室内の整理整頓、清掃への取り組みの励行について、概ね真面目に取り組んでいる。委員会を通じて、点検等の実施の成果があった。</p> <p>昨年度初期指導の一環として行った巡視を今年度も行った。その結果全体として落ち着いた生活を送ることができている。学習面では夢手帳による学習計画、振り返りを定期テスト1週間前から行った。一部不十分なクラスもあったが、今後も、計画的な学習、勉強に対する姿勢を作る活動として徹底したい。</p> <p>志望理由書の作成に始まり、生徒が進路決定に至るまでの道のりを、学年全体で共有できるようにLHRを活用した。特に2学期には面接試験対策をLHRで扱い、放課後の面接指導につなげていった。その話を受けて、担任はSHRで同じ流れで指導していった。また、今年度から新たに始まった附属校入試の情報も、常葉大学との連携により、いち早く正確な情報を生徒に伝えていった。価値観を共有するためにはLHRは欠かせないものとして、最大限利用している。</p>		
【今後の課題】		
<p>2020年度の新入試に向け、不透明な部分もあるが、今わかる範囲の情報に対処していく必要がある。実践項目を精査し、学年が上がると具体的な実施項目を掲げ、学力の3要素である知識・技能の確実な習得。思考力、判断力、表現力の育成。主体性を持って多様な人々と協働(同じ目的に向かって力を合わせて物事を行う)して学ぶ態度を身に付けさせることを目標とし、取り組んで行くことを目指したい。</p> <p>一つ一つの日常的な指導をぶれなく最後まで行うことが、学習生活環境を整える一番の近道だと思っている。その意味で、クラスにより指導に差が出ないように、「指導の質」の一定水準維持に注意していきたい。地域社会との連携という観点からのアプローチは受験指導の中では時間が確保できなかったため、さらに検討する必要がある。</p>		
全平均		3.5

平成30年度 学校関係者評価 アンケート結果

常葉大学附属菊川中学校・高等学校

分野	達成項目・評価の観点	平均
1	科・コースの特徴を生かし、効果的な指導を実践する。	3.4
<p>【関係者の御意見・御要望等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの進路について相談にのり、悩みながらも自分で答えを出せていた。 ・忙しいとは思いますが、個々の生徒の状況をもう少し把握し良いクラス作りをしていただきたい。 ・保護者の耳にはあまり聞こえてきません。もっと分かりやすくして欲しいです。 <p>菊川中高は、細かな科・コース制をとることにより、生徒の進路希望や学力状況に沿ったきめ細かな指導がなされていることを評価していただいています。今後も日々の授業や行事、各学期の特別時間割、休暇中の実技講習会等を通して、各自の進路目標を明確にさせながら、科・コースの特徴を生かした指導を実践していきたいと考えています。また、各科コースの枠を越えた全校行事や指導も効果的に行っていきたいと考えています。学校行事の様子などは、ホームページやツイッターなどを活用して、さらにわかりやすく広く発信していきます。</p>		

2	授業内容を充実させ、学力を定着させる。	3.3
<p>【関係者の御意見・御要望等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら学ぶ姿勢は家ではなかなか見られませんが、授業をしっかり受けているのか聞いていますと感ずる。 ・定期テスト前の勉強会で大学生が来て教えてくれたのが良かった。 一貫生について、中学から高校へ上手く連携してもらいたい。 ・中学高校一貫の強みとして、高校授業の先取り教育と聞いているが、実態はそうになっていないとも聞いた。どのようにしているのか？ ・私立学校の強みが十分に発揮されているのか、多くの保護者から満足いく声が聞こえてきているのか、疑問点が多い。それだけ希望され期待されている。 ・もっと厳しくして頂いても良いのでは。個々に主体性を持たせるべく、厳しく。 <p>【今後に向けての学校の考え】</p> <p>アクティブラーニングなどを通じて主体的に学ぶ姿勢を授業の場で持たせ、既習内容を振り返り、新たに課題を見出し、以後の学習につなげていく姿勢を家庭学習の場で持たせていくことは、今後の菊川高校の学習指導における根本だと考えています。生徒の問題解決能力を高めていく場として、授業のみならず放課後の指導体制も構築していこうと思います。進路の希望を挙げさせるだけでなく、その実現のために何が必要かをよく考えさせ、その克服に向けて受身的でなく自ら学習を進めていくような生徒を増やしていきたいと考えています。生徒の学力を高めさせるには教員同士のコミュニケーションが不可欠であり、授業におけるスキルの共有化、一貫コースにおける中学から高校への引き継ぎ、生徒へのアプローチの手法など、若手・中堅・ベテランの区別なく研修を重ね、同じ切り口となる学習指導体制を校内で築くことが大切だと考えています。生徒の個性、レベル、状況に応じた個別指導と、科・コース・文系理系・習熟度など集団の目標に応じた授業をうまく織り交ぜられるようにしていきたいと思っています。</p>		

3	生活指導を重視し、事故やいじめや非行等を未然に防ぐ指導を重視する。	3.6
<p>【関係者の御意見・御要望等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日楽しく登校し、子ども同士でのやりとりで解決している。コミュニケーションがしっかり取れるようになってきた。 ・学校から保護者への連絡について、行事の日程や持ち物に関する連絡が遅すぎるといった意見も多く耳にします。ぜひ改善を。 ・全体的に生徒の状況は安定し落ち着いていて良好と感じます。 ・ルールを決めるなどして、スマホを中学生もOKにしてほしい。 ・車に乗っていても、会釈して挨拶してくれる部活生は素晴らしい。 ・色々取り組みされている。 ・常葉の挨拶がしっかりできる子を徹底して欲しい。 ・特に駅でのマナーは注意して下さい。 <p>【今後に向けての学校の考え】</p> <p>菊川中・高では『より高きを目指して』という目標のもと、全ての基礎に当たる人間力・生活力の向上を目指しています。挨拶やマナーは重点指導対象になっており、全教職員に周知徹底し率先垂範出来るようこれからも努めてまいります。校内ではマナーアップという取り組みを行っておりマナーをどう捉えるべきかを事ある毎に担任から話し、社会の一員としての自覚を持たせる取り組みをしています。昨今学校の生徒指導はSNSやLINE上の友人関係トラブルが9割を占めています。中高ともにITモラル講座や情報モラル講座などを行い、取り扱いに際し注意を促しています。また、公共の場での使用方法など課題はつきません。これからは我々大人が勉強し高度化していく情報技術に対応出来るようにしていく必要があると思います。そして多様化していく現代社会に対応し、自己を確立し、他人を思いやる心や価値観の尊重、認めあう気持ちを育てていきたいと考えています。</p>		

4	進路指導を充実させる。(常葉大学との連携強化)(地域社会との連携強化)	3.5
<p>【関係者の御意見・御要望等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館を使っています。ありがたいです。 ・検定の案内を確実にしてほしい。 ・資格取得はもっと積極的に生徒が受けられる様に、うながしてほしい。 ・日常学習と受験との関連づけの意識を1年生の時から持てるよう指導お願いします。 ・中学生が常大見学等をする機会があれば意識が高まると思う。 ・本人の目標を絞り込めるサポート体制をしっかりして欲しい。 <p>【今後に向けての学校の考え】</p> <p>本校では、「主体性をもって学びに向かう」生徒の育成を目指し、教員が指導にあたっています。3年生は進路決定に向けた指導が軸となりますが、低学年次は広く知識を得る教養講座、進路ガイダンスを中心に、自身のキャリア形成について考える取り組みを実施しております。加えて、「言語活動」「基礎学力」の充実を活動の中心に掲げています。「言語活動」では、語彙力・読解力の醸成に向けた取り組みや、行事毎にリフレクションを実施し、言語化を通じ自らを省みる取り組みを行っています。「基礎学力」については、スタディーサポートを軸に、教科指導へのフィードバック、また毎季に補講を実施し、基礎学力習得に向け支援を行っています。更に「みらい学講座」では希望者参加ではありますが、菊川市との連携を軸に、常葉大も含めた官学協同で、フィールドワークを通じた問題発見・解決能力の醸成を企図し実施しています。</p>		

分野	達成項目・評価の観点	平均
5	環境美化・公共物を大切にすることを重視する。	3.4
<p>【関係者の御意見・御要望等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活をやっている子達が、よく朝に落ち葉などを掃いているのはよく見かけました。 ・校舎建て替えの計画内容やスケジュールを教えて欲しい。 ・中学の教室が暗い。中央に灯りが足りないと思う。 ・清掃中に遊んでいる生徒が多いです。 <p>【今後に向けての学校の考え】</p> <p>今後も校内美化の徹底と、クリーン作戦に見られる地域の清掃活動への積極的参加に取り組んでいきます。校内の美化が生徒の学校生活を落ち着いたものにしていくため、不特定多数の使う場所への清掃指導を含め、美化への意識を高める指導を継続していきたいと思えます。校舎の建て替え工事が始まり、来年11月に新校舎の完成、12月に引越の予定です。この中でもできるだけきれいな状態に保てるように清掃にも力を入れていきます。</p>		
6	防災や危機管理に関する指導を重視する。(地域社会との連携強化)	3.2
<p>【関係者の御意見・御要望等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校から下へ下りるには坂道一本でしょうか？他の道が必要なのでは？ ・自分の住んでいる地域だけでなく、学校にいる間に災害が起こる可能性を考えて、菊川の防災訓練に参加してはどうか。 ・昨年の台風被害のレベルに対して見直しを。 <p>【今後に向けての学校の考え】</p> <p>地域での防災意識を高めることも大切なことであり、中高生が地域で中心になって活動できるように、地域防災訓練への参加呼び掛けを強化し、積極的な参加が増えるよう工夫していきたいと考えています。社会的活動を通して、社会の一員であることを自覚させると共に災害時に危険を察知して臨機応変に動けるようにしていきたいと思えます。災害への準備は授業中を想定したものだけでなく、様々な場面で起こる可能性があることを想定する必要があります。そのためにも、生徒一人一人が自分で自分の命を守るという意識を育てたいと思えます。台風など気象状況の変化が激しいので、情報をしっかり把握し、余裕をもった対応をしていきたいと思えます。</p>		
7	学校行事・生徒会活動の活性化を図る。	3.8
8	LHR・SHRの効果的活用を図る。	3.4
9	部活動の充実を図る。	3.5
10	「自己評価」や「学校関係者評価」を活用し、生徒・保護者・同窓生・地域の人々から信頼される学校づくりをする。(地域社会との連携あり)	3.6
<p>【関係者の御意見・御要望等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・菊川市との連携協定は良い取り組み。 ・運動部に関してはスポーツを通して真剣に取り組める環境をしっかりと作って欲しいです。大学をもっと巻き込んで協力を得られたらいいと思えます。 <p>【今後に向けての学校の考え】</p> <p>今後も菊川市との共同事業を通して、問題解決能力、自ら考え行動する力を身につかせ、主張できる生徒を育成していきたいと考えています。</p> <p>部活動は全人教育の場として教育面において有効な場ですが、時代の流れを勘案し、部活動の回数、時間についての見解を改めることも今後求められていくと考えています。また、部活動だけでなく、科・コースの縦のつながりを持たせる工夫をし、伝統を重んじ、視野の広い生徒の育成に努めていきたいと考えています。これからの社会は、他人を尊重すること共に自己表現力も大事になっていきます。学校行事で行ったこと、学んだことなどをポートフォリオ化して学びの記録を作っていきたいと考えています。LHRで行った実践記録、良い企画などを教員間で共有化して、有意義なLHRを行っていききたいと思えます。学校行事や部活・HR活動を通して、協調性を養い、自己表現力を磨かせたいと考えています。学校としても地域密着型の学校を目指し、保護者や地域の方々からの意見を謙虚に受け止め、信頼される学校を目指します。</p>		